

「アイ・アム・ロヒンギャ」 難民映画上映会

－企画・実施とその後の関連活動の展開－

細田 尚美

「アイ・アム・ロヒンギャ」 難民映画上映会

—企画・実施とその後の関連活動の展開—

長崎大学 細田 尚美

本稿では、2021年4月25日にオンラインで開催された WILL2LIVE 難民映画上映会「アイ・アム・ロヒンギャ」（長崎大学多文化社会学部主催・国連 UNHCR 協会後援）と、この事業によって発足した学生サークル「STARs」による多様な難民に関わる活動について紹介する。上映会は、令和2年度ならびに令和3年度の部局長裁量経費による教育実践支援事業として採択され実施された。当日のプログラムは以下の通りである（詳しくは付録のチラシを参照）。

12:50～13:00 開会式

13:00～14:30 映画上映

14:30～14:45 休憩（写真家の新畑克也氏ならびに狩新那生助氏の紹介等のミニ企画）

14:45～15:45 ビルマ近現代史研究者・根本敬氏による映画の背景に関する講演

15:45～16:00 閉会式・休憩

16:00～17:00 ロヒンギャ難民についての理解を深めるアフタートーク（希望者のみ）

上映会には、本学部の学生や教職員のほか、他学部の学生、他大学の学生、一般市民、中高生ら、合計137人が参加した。参加者の半数が大学生と大学院生だった。年齢別で見ても、参加者の4割が10代、2割が20代と、若い世代が中心を占めた。

次に事業の特徴を3点にまとめて示したい。

第一は、企画・運営が全面的に学生主体で行われたことである。発端は、筆者が2019年度前期の学部2年生向けの外国語文献講読の授業で移民・難民に関する英文図書を講読していた際、受講生らが自分たちで難民を支援する行動を起こしたいとの意見が出たことだった。筆者が難民支援に関わる活動の一例として、日本各地の大学等で難民映画上映会を開催するために国連 UNHCR 協会が組織する「UNHCR WILL2LIVE Cinema パートナーズ」に参加するという方法を受講生に伝えたところ、10人前後の学生からその活動に参加

してみたいとの意向を聞いた。その後、学生たちは国連 UNHCR 協会と連絡を取り合いながら、「アイ・アム・ロヒンギャ」(カナダ2018年制作)を上映作品として選び、イベント開催の準備を進めた。その過程で学生たちは「STARs」というサークルを組織し、当初は翌2020年4月に上映会を開催できるよう準備した。開催直前に新型コロナウイルス感染拡大によるイベント開催の中止を余儀なくされるという事態が発生したが、その後、開催の方法と時期を模索し、1年後の2021年4月にオンラインで開催に至った。上映会は司会、機械操作、開催後のフォローアップまですべて自らで実行した。

第二として、難民映画上映会には本学部を越えた多くの人々が関った点を挙げたい。移民・難民というテーマはグローバルイシューの1つであり、この事業が長崎県で初めての難民映画上映会だったという背景がある。上映会の広報は、STARs メンバーによる SNS 活動やチラシの作成と配布にくわえ、長崎大学や国連 UNHCR 協会等のホームページ、またそれを見た地元メディア関係者によるニュースの発信といった数多くの媒体を使って行われた。また、ロヒンギャ難民たちの故郷であるミャンマー(ビルマ)の近現代史が専門の根本敬・上智大学教授が映画の背景に関する講演や質疑応答を快諾してくださったことも、上映会に対する関心を高めたと思われる。さらに、他大学の学生からの紹介で、ロヒンギャの人々を撮り続けている写真家の新畑克也氏ならびに狩新那生助氏とも連絡を取り、写真展も企画するなど、映画上映以外の活動も本事業に含められた(オンライン開催に変更したため写真展は中止となったが両氏の紹介を映画上映会で行った)。これらの結果、上映会の情報が多方面に伝わり、予想を上回る100人以上が参加するイベントとなったと考えられる。

第三に、STARs メンバーたちは上映会後も難民問題について勉強会を開いたり、広報活動に関わったりと、主体的な活動を続けている。ライブ発信型イベントや、高校生を対象とした難民問題に関する講演、長崎県大村市の大村入国管理センターに収容されている外国人に対する支援活動等を実施するほか、毎週サークル内のミーティングも開催している(活動の詳細は学生レポート1を参照)。

本事業に参加した学生のうち3名に感想文を書いてもらったので、それらを「学生レポート1～3」として掲載する。「学生レポート1」は本事業を受けて映画上映会の開催を企画・運営した STARs メンバーの活動の経過を始まりから現在に至るまでをまとめ、「学生レポート2」は映画上映会に関わった一学生の感想を記し、「学生レポート3」は STARs メンバーらが自らを組織して活動を続ける動機について述べる。これら報告を読むとわか

るように、この事業を通じて、学生は自分たちが感じる、あるいは学んだ社会的な問題の一端に実際に取り組む経験を得たといえるだろう。上映会の開催と、その後の難民支援活動への参加を通じて、サークル内外の人々と密に話し合い、ネットワークを広げながら、関われる事柄を次々と見つけていくサイクルが彼（女）らの間に存在している状況が読み取れる。他方、移民・難民問題には簡単な解決方法はないという現実を踏まえて、難民支援活動をいかに継続していくのかという点に関しては、展望が見えているわけではない。長期的な視野で、本事業に端を発する学生たちの活動の継続を図る必要があると感じる。

コロナ禍からの出口がまだ見えない現在、感染予防のために大学生の課外活動や社会活動に対する制限が厳しい状態が続いている。かつては大学生としての生活の重要な部分を構成していたこれらの課外活動の欠如が問題視されている。しかしながら、感染状況を考慮し、柔軟かつ冷静に具体的な活動内容を選択すれば、社会的な貢献活動は可能であることをこの事例は示しているように思える。このような実践を通じた学びの場が今後さらに増えることを期待する。

付録：難民映画上映会のチラシ

●チラシ表面

WILL2LIVE難民映画上映会

I AM ROHINGYA

アイ アム ロヒンギャ



4/25 (日)
12:50~17:00

@オンライン(Zoom)開催

詳細は裏面に記載

ミャンマーから命がけでバングラデシュに避難した14人の若きロヒンギャ難民。その後カナダのオンタリオ州へ定住し、拷問、殺人、レイプ、焼き討ちといった壮絶な経験に苦しみながらも、自身の生活を立て直そうと奮闘する。彼らを突き動かすのは、“忘れてはならない悲劇”を伝えていかなければならないという使命感。演劇を通じてロヒンギャの人々が受けてきた迫害、いま直面する現実を世界の人々に伝えようと、トラウマ、自らのアイデンティティに向き合いながら成長していく姿を描く。

『アイ・アム・ロヒンギャ』：CInnerspeak Media



参加無料

ご参加希望の方は左上のQRコードより申込期限までにお申し込みください。ZoomのURLを前日までにe-mailアドレスにお送りします。

予約制
先着100名

←

申込期限
4月18日(日)

国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

×

UNHCR
WILL2LIVE
Cinema Partners

主催：長崎大学多文化社会学部
後援：国連UNHCR協会

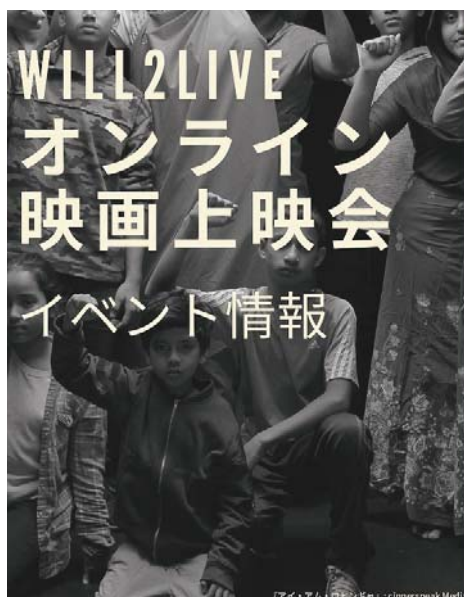
問い合わせ先：
E-mail:nurefugee@gmail.com

映画上映後
オンライン映画解説

ロヒンギャ問題の歴史的
背景と現状、問題解決へ
の道について解説してい
たします。



根本 敬
上智大学教授
〈専門〉
東南アジア近現代史
ビルマ地域研究



アフタートーク

イベント終了後、根本教授と参加者の皆さまが交流するアフタートークを企画しています。さらに考えを深めたい方、根本教授のお話をもっと聞きたい方は、ぜひご参加下さい。参加希望の方は申し込みフォームのアフタートーク欄にて、「希望する」をご選択ください。



ミニ企画

映画上映後の休憩時間に写真家の新畑克也さんと狩新那生助さんの紹介や、難民問題に関するミニ知識をお届けします。

難民ってどんな人？

シリア難民は今
どうしているの？

エシカルコスメって何？

注意事項

- ・視聴に伴う通信料はご参加いただく皆様の負担になります。
- ・安定したWi-fi環境下でご視聴ください。
- ・録画・写真撮影は固くお断りさせていただきます。
- ・Zoomに不具合が生じた場合は、参加申し込みをされた方を対象にYoutubeにて限定配信いたします。
- ・やむを得ず、イベントが変更・中止となった場合、それによるいかなる損害にも主催者・出演者は一切の責任を負いません。
- ・本イベントは日本在住の方のみとなっております。

スケジュール

12:50-13:00	開会式
13:00-14:30	映画上映
14:30-14:45	休憩(ミニ企画)
14:45-15:45	根本敬教授トークセッション (講演45分、質疑応答15分)
15:45-16:00	閉会式・休憩
16:00-17:00	アフタートーク(希望者のみ)

※途中入室・退室可能

根本敬教授トークセッション

映画上映後に、ビルマ近現代史をご研究されている、上智大学総合グローバル学部の根本敬教授とのトークセッションを行います。トークセッションでは映画の解説はもちろん、ミャンマーの政治情勢に注目し、多角的な視点からロヒンギャ難民問題を掘り下げます。根本教授への質疑応答の時間も予定しておりますので、ぜひご参加下さい。

講演テーマ：

「ロヒンギャ問題の歴史的背景と現状、問題解決への道」



長崎大学学生団体STARSについて

私たちSTARSは「難民問題」をもっと身近に！」を合言葉に2019年に活動を開始しました。本映画上映会は、国連UNHCR協会の学校パートナーズの活動の一環として運営にあたっています。これまでの活動は以下のSNSで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



: @stars_refugee
 : @stars_refugee
 : @stars.refugee